

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《天恵の海》

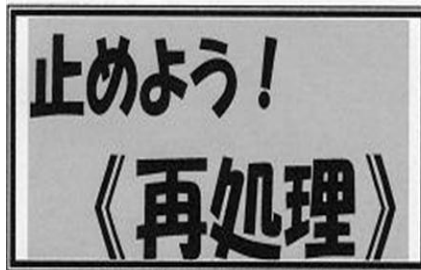
2012(平成24)年

5月 7日

第112号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636



原発より危険な工場、「想定外」は許されない 防災に係わる資料は全て公開を!

六ヶ所再処理工場・回答書



あまりに不十分な内容

再処理工場の反対運動を続けている「六ヶ所村ラブソデー」東日本市民サミット仙台集会」が決議した「再処理工場閉鎖に向けた準備開始を求める要請書」は、三月七日六ヶ所村日本原燃本社を訪れた一五人の市民達によって川井吉彦社長宛提出されました。その際の「公開質問状」の回答について、日本原燃から三月一四日付の回答文が届きました。さらに七日の提出交渉の際に出された口頭質問についての回答書が四月二日付けで届きました。

昨年六月三日に受けとった『回答書』と同じく「全電源喪失は考えられない」とする内容であり、福島原発事故を経ても相変わらず不誠実な回答でした。再質問が必要です。

(取材・館&尚)

竣工目標九回も延期 工場完成の見込みなし

現在、試験再開に向けた準備はガラス固化の不調で中断しているが、今後の見通しは?

これに対する日本原燃の回答は、ガラス固化炉の流下を妨げているレンガ屑を取り除いたとか「B炉もガラスを完全に抜き出してきれにする」などの回答で、そ

再処理工場の安全を問う 公開質問状

昨年度三回提出
『3・11原発大震災以降危険を憂慮する市民団体が相次いで提出しています。』

二〇一一年四月二六日
六ヶ所再処理工場・日本原燃へ(二三市民団体)

のような事態に立ち至った原因について何ら述べていません。

高レベル放射性廃液の液体のままの保管はあまりに危険なので、「日本の独自開発(ジュール熱方式)」は諦めて、既に実用化している「フランス型高周波加熱方式」を採用出来ないかと質しましたが、回答は「フランス型は耐用年数が一年で短いなどの理由を挙げて日本型独自開発で行く」としました。再処理そのものを諦めれば「耐用年数一年」で充分ではないか。危険極まりない廃液「二四〇立方メートル」は、硝酸の入った液体状ではなく、ガラス固化であれ、とにかく安全にする責任と義務がある。見通しもない技術に巨費を浪費することは許されません。

十一月九日

東海再処理工場・日本原子力開発研究機構へ(七二市民団体)

二〇一二年三月七日

六ヶ所再処理工場・日本原燃へ(今回の「市民サミット」決議)

福島事故の海洋への大量放出に心痛まないか

福島事故において海への放射能汚染も大きな問題となったが貴社はこれまで行って来た以上の何らかの環境、健康対策を講じる予定はないか。

回答では、福島原発事故後、保安院から「再処理施設の緊急安全対策」の指示があり、その後「妥当」という評価を受けた。昨年一月に「安全性に関する総合評価」の指示があり、実施中である、としています。

再処理工場の環境汚染防止については、これまでどおり国の規制を守り、除去出来ないものについても低減に努力している「いついづも」からの回答でした。そして、操業しても陸上の住民の被ばくは年間0.022ミリシーベルトと、相変わらずの数値が述べられ、福島事故のすさまじい放射能放出の実態や、大気や水の循環、食物連鎖による環境汚染について無視し続けられています。

福島第一原発の事故を受けて、貴社はシビアアクシデントとしてどのような最悪事態を想定しているのか？

七日の折衝で原燃は「全電源喪失が起こり回復出来ない場合、使用済み核燃料プールの水が沸騰するまで二〇日程度かかり、燃料が水面から露出するまでにはさらに一〇〇日程度かかる（計算式は公表出来ない）」と回答しました。非常用発電機二台と、電源車が配置され、冷却水供給のための一立方メートルの水プールがあり、消防車も配置され訓練も行ったといっています。

間隔一〇〇メートルで安全なのか？

高レベル放射性廃液タンクの断面図を公表してほしい。使用済み核燃料プールとはどのくらい離れているのか

この点について文書で回答がありました。しかし建屋全体の説明図ではなく、「事業申請書」に発表されてきたタンクのみ構造図が載っており、「冷却コイルは

二系列で、水素希釈のための圧縮空気を供給」との説明文がありました。そして両方の「建屋の距離は約一〇〇メートル」と記されています。

たった一〇〇メートルの間隔で巨大過酷事故を起こす可能性が有る高レベル放射性廃液と使用済み核燃料三〇〇〇トンプールが隣り合っているのです。

別途、回答を得た東海再処理工場の場合、原子力研究所が開発機種の回答では、高レベル放射性廃液貯蔵所廃液貯槽の電源喪失で、廃液沸騰まで四八時間、水素爆発まで約三〇時間」と書かれています。両施設が接近していると、どちらかに事故が起こった場合、強い放射線により事故対応作業が不能となり、両方とも苛酷事故になってしまう懸念は否定し切れません。危険を避けるには、一刻も早く操業を停止することであり、高レベル放射性廃液は固化体とし、プールの使用済み核燃料も撤去移動させ、双方を引き離すべきです。

高レベル廃液の濃度は三六億ベクレル／リットル

六ヶ所工場の廃液の濃度を教えてほしい

原燃の回答書には、貯槽毎に濃度が違うがガラス固化セル内における漏えい時の濃度は3.60×10の9乗ベクレル」と記されています。

これは既に公表されている「漏えい事故報告書」にあるセシウム137の濃度です。東海再処理工場では「（全核種で）百億ベクレル／リットル」と回答しました。日本原燃も「全核種合計の濃度」と「核種毎の数値」を早急に公表するべきです。

本当に放射能値の上がる廃液を放出しなかったのか？

一月～二月にかけてのRモニターの波形が異常に上昇したことがあったがなぜか？

回答書では、一月二五日から二月一六日まで第一放出前貯槽排水モニター指示値の一時的な上昇は、モニター近傍で工事をしていた際の溶接機からのノイズの影響や非破壊検査放射線透過検査)によるもの

です」というものでした。溶接のノイズを拾うようなモニターで信頼できるのか、納得出来ない理由です。本当にレベルの高い放射能廃液は流れなかったのだろうか？

腐食穴を修理しないまま動かすのか？

高レベル廃液蒸発缶穴あき加圧運転について安全性はどうか？

回答では、濃縮缶のあるセルは放射能が高いので遠隔による補修作業が必要であるが、技術的検討の結果加圧方式と温度計汚染防止管挿入方式を採用することとした。加圧を一定に範囲で管理するので損傷箇所を拡大させることはない」と記されています。低圧で水分を蒸発させ濃縮する部位であり、実際にはむしろ危険で困難な作業ではないか？

周辺住民への連絡態勢が不備ではないか

回答書では「三・一一大震災によって、東北地方全域が停電し、電話回線が全て途絶えた。六ヶ所村と青森県へは直接訪問し連絡した」と記されています。しかし、訪問するのは役場や県庁であり、住民に直接知らせる態勢になっていません。モニターリングの非常電源が働かなかつた事も問題です。

住民と一緒に防災計画を立てよう

住民を交えて防災計画を作り避難訓練する計画はないのか？

この点について当日の口頭回答では、行政とも協力して行うことになるので確認して回答する」としました。000000

四月末、原子力委員会小委員会は、使用済み核燃料の直接処分は再処理費用より安価」という試算を発表し、「再処理廃止関連費用など約五兆円」という数字も公表しました。これは再処理廃止が大きな事業である事を示します。政府と日本原燃はすべての資料を公表して国民の判断を仰ぐべきです。